

議会報告「市民との意見交換会」(H27.2.16～2.19 開催)
アンケートの意見等

【意見交換のテーマ「人口増施策」について】

- 希望。静かに暮らせる町であってほしい。
- 交通の利便性などハンディーは大きいですが、こんなに災害の少ない町（地域）は日本でもめずらしい。それゆえ 1300 年以上の昔から栄えた地域ではないか。播磨風土記 1300 年祭をイベント化するのも大切だが、それ以上になぜ古くから栄えた土地なのか、住みよい地域をもっとアピールすべき。
- この情報化の時代、田舎や家に居たままで様々なこともできる。町に行かなくてもできることが沢山ある。そのあたりをしっかりとできる町づくりも考えるべき。でもそれ以上に結婚しない男女を何とかしないと人口は増えない。
- 神戸、明石、加古川、姫路に近い所の活性化。
テーマ選択が間違っているのか、集まる若い人が少ないのは何故なのか。
- 加西市が元気だということをもっと内外に P R すべき。自転車道や万願寺川沿いの桜、富久錦などもっとアピールすべき。住めば加西市の良さが分かるだけに残念。
- 若者、女性にこの人口増の話が伝わるといいですね。その対応等を考えて下さい。消防、P T A との会合など。
- 若者世帯の補助金の P R をよろしく。
- 奨学金補助は奨学金を受けた人しか反映されないのがどうかと思う。
- 自分がこれからずっと住んでいく加西を良くしたいとみんなが思うような取り組みを作っていってほしい。
- 人口増対策は非常にむずかしい問題であることは確かであり、この問題を市、議会、市民を取り囲んで考えていくためにも、議会も一致団結してかかっていると市民もついていけないと思う。
- これから町単位で人口増対策も必要です。町の推進にあたり、議会、行政のバックアップをお願いします。
- 地元に残る若い者が、年々増えるボランティア保全出役作業に嫌気がさして農業の無い所へ出てしまう事も聞きます。
- 宇仁郷にも住宅問題、人口増へ向けて取り組んでいます。
- 教育に力を入れるにしても、他と同様では意味がないと思います。例えば農業関係の高校や大学があるので、小、中も農業教育に力を入れてそれを特色とするなど他とは違うことが必要だと思いました。
- 加西市の人口増施策は、今まで加西市と全く関係のなかった人の転入を期待するより、進学等で都市部に出た人の U ターンや加西市住民だった人と結婚した市外住民の加西市への転居など、加西市とゆかりのある人の転入を促進する施策をすべきです。

若い世代（働き世代、子育て世代）の人々が加西市居住を嫌がる大きな理由として、加西市の消防団問題がある。話を聞くとところによると、30代で加西市内に住むことが可能な人でも、消防団に入るのを避けるため、40代後半から50代まで市内に住まない人もいるらしいです。私の住んでいる自治会の消防団で、都市部から市内の妻の実家へ引っ越してきた人がいるが、その人に「加西市に来て不満を感じる事はあるか。」と聞いたところ「消防団に入らなければならなかったこと。消防団のことを知っていたら、加西市に転入しなかった。」と言われた。消防団が若い世代の加西市居住を妨げる理由となっていることは明らかです。

上記の件について「消防団は他市にもある」との反論もあるだろうが、他市と比べても加西市の消防団の負担は大きい。加西市の消防団定数は1,418人です。これを人口100人当たりになると、3.1人となる。面積1㎢当たりの団員数は9.4人となる。北播磨の他の4市を見ると、人口100人当たりの団員数は西脇市2.2人、加東市3.2人、小野市1.4人、三木市1.7人となる。1㎢当たりの団員数は西脇市7.0人、加東市8.1人、小野市7.5人、三木市7.7人となる。面積で見ると加西市の団員数は明らかに多いし、人口当たりでも加東市を除くと加西市は多すぎる。実人数を人口当たりにしたら、加西市は3.09人、加東市は3.04人となり、加西市は北播磨で最多の団員数となっている。北播磨以外でも、人口が加西市と同じくらいの人口3~4万人くらいの市を見ると、相生市は人口100人当たり1.7人、1㎢当たり5.7人となる。赤穂市は人口100人当たり1.2人1㎢当たり4.9人となっている。大きいところでは、周辺市の倍にもなる負担を求められる加西市に、若い世代が住みたいと思うだろうか。人口増政策に一定の成功をした隣の小野市は、消防団の負担は人口当たりの半分で以下である。加西市も人口増を目指すなら、小野市より負担を少なくするくらいの団員数削減をすべきである。また、消防団員には公費から団員報酬や退職金が支払われている。加西市は財政再建を目的に議員歳費や職員給与のカットをしているが、消防団員削減による団員報酬の削減こそ優先すべきではないか。さらに、過剰な団員数を維持するため、遠方にすんでいて消防団活動に参加困難な人や、地元に住んでいても活動に出ようとしない。幽霊団員を仕方なく在籍させている団もある。動かない団員に税金から報酬を支払うのも納得いきません。加西市の人口が減少する理由として、加西市は雇用がないと言う人もいるが、話を聞くとところによると市内の昼の労働者人口のうち半数は市外からの通勤者だとも言われる。その市外から市内に来ている人に市内に居住してもらえるようにすべきだ。そのためにも、若い世代（働き世代、子育て世代）が市内居住を嫌がる原因となり、財政難の加西市の税金の無駄使いになりかねない。

消防団の改革をすぐに実行すべきだ。補助金政策と違い新たな予算が必要となる改革ではないので、平成27年度にでも実行してほしいと思います。

消防団問題については団長や副団長など幹部からだけでなく、一般団員からも意見を聞く機会をもって考えてほしい。

- 「北条鉄道」がマスコミに取り上げられ、テレビ等で大々的に宣伝されているが、本当に素晴らしい観光資源になっている。また、その列車内でのいろいろな催しがテレビで紹介されているので今後の人口増に大いにつながっていくと思われま。
- 「婚活」もどんどん実施してほしい。JCや商工会でもっと取り上げてしてほしい。
- 人口増については是非頑張してほしい。いろいろな施策については市外へのPRを活発にするべきである。

【市政及び議会に関する意見・要望・質問事項】

- 国の政策ですが、多面的機能支払交付金制度（旧農地・水・環境保全活動）について、補助金額は圃場面積当たりで算出されます。市内南部の比較的大きな圃場を持つ地区は毎年数百万円あり、北部の山に近い小さな地区では、保全箇所は多くありますが、補助金は少ない状況です。必要な所に必要な補助金が出るように助言をお願いしたい。
- 人口減少→10年減少。三洋電機が無くなったため、中小企業が縮小されてきた。市外企業へ移住されている。
- 企業誘致しても加西市の住民が30人募集しても応募するのは5名程である。7割市外の人で3割市内の人。人がいないのか。
- 北条鉄道への道。各駅から行き場所までバス計画を立てられないか。
- 交通の利便性を高めることが重要である。北条町駅～2高校間の通学用路線バスの増設等、点と点を結び面として広がる交通網で市外からのアクセスを高める。気軽に（車のない老人等）便乗させてもらえる業者車の考案、依頼する。北条鉄道の利用し難い住民対策についてはアイデアを持っている人が存在する。